

議 事 録

件 名	第20回（仮称）登別市景観・緑化条例検討市民会議
日 時	平成25年5月21日（火）午後6時30分から
場 所	市民会館2階 小会議室
会議内容 （質問等）	<p>○会長挨拶</p> <p>会 長： 皆さんお晩でございます。それでは第20回（仮称）登別市景観・緑化条例検討市民会議を開催いたします。開催に先立ちまして報告があります。このたび校長会の異動があり、J委員に代わりましてA先生が就任されましたので、挨拶をお願いしたいと思います。</p> <p>A 委 員： 今年度、校長会から代表として参加させて頂く事になりました鷺別中学校のAです。よろしくお願いします。</p> <p>○資料の説明と質疑応答</p> <p>会 長： それでは第20回の会議を始めたいと思います。前回の会議で意見のあった事に関連した資料を皆さんのお手元に3枚用意しています。議事録は皆さん持って来ていらっしゃいますか。それらの資料で記憶を戻して頂ければと思います。現在、素案の検証作業も一応一巡しましたので、再度、全体をとおしで見て検証するということに来ております。その中で、B委員から提案があった第3条第5項の理念の中の「価値に目覚め」という事について、文章的にどうなのだろうかという事を何度か皆さんで議論させて頂きましたが、まとまりませんでしたのでリーダー会議でも検討してみました。「価値への目覚め」という響きについては非常に良いという事でしたので、何とか入れたいという事でしたが、文法上、中々難しいという事もあり最終的な修正案といたしまして、「良好な景観と豊かなみどりは、先人たちが遺した大切な財産であることから、その掘り起こしを行い、価値を共に認識し、次代に引き継がなければなりません。」という文章に落ち着かさせて頂きました。B委員よろしいでしょうか。前回の整理という事で、とりあえず修正案のとおりにしたいと思います。</p> <p>もうひとつB委員からご提案を頂きましたが、前文などに関連するということで、現在の条文に至った経緯が分かる資料として、A4とA3の資料も一枚ずつ用意しています。このことについて、もう一度、B委員からご提案頂き、皆さんでまた議論したいと思います。</p> <p>事 務 局： B委員から頂いたものを皆さんにお配りしておりますので、これを基にお願いします。</p> <p>B 委 員： 前回の会議の中で私が提案した案なのですが、説明させていただきます。</p>

私はまず、登別の特徴づけるものは何かという事を考えました。やはり温泉とアイヌ語地名が他の地域には無い特徴だと思っております。その中で私は、一応このような文を作ってみました。

「私たちの住むふるさと登別は、西はカムイヌプリ、東はオロフレ山系を背に丘陵地が広がり、多くの川が市街地を流れ、太平洋へと注いでいる水とみどりに恵まれた自然豊かなまちです。

また、登別温泉は豊富な湯量と種類の泉質を誇ると共に、登別原生林や活火山を擁する秀れた景勝の地でもあります。国内外から多くの人々が訪れる観光地として発展し、貴重な資源や良好な景観に恵まれたまちです。

登別はアイヌ語ヌプルペツ（濁った川）が語源であり、登別の山河や大地にアイヌ語地名や伝承が残る文化とロマンの香り漂うまちです。

私達登別市民は先人達が培ってきた、このみどり豊かな自然環境と良好な景観、文化を貴重な共有財産と認識し、将来にわたり守り、育て、活かし、次代へ継承していくためにこの条例を制定します。」という事です。

これは、これまでに作成した素案と私が作った文章を要するに合体させたかたちになっております。

それで作り終えてから考えたのですけれども、最初の「西はカムイヌプリ、東はオロフレ山系を背に」と書いてありますが、これはあくまでも、幌別に住む人が見た景観であります。驚別に住む人とか登別に住む人は、このような景観が目に入りません。それで、色々考えたのですけれども、西とか東に分けない方が良いのではないかと思い、「登別はカムイヌプリ、オロフレ山系、後はクッタラ火山」というように直したら、どの地域の方も山の景観を目にする事が出来るのではないかと考えました。

会 長： ありがとうございます。資料の最初に載っているのは、一応今までの会議の中でまとめ上げてきた前文です。条例の最初の部分にあたる前文ですから、登別市のまちの景観がイメージ出来るようなもの、それから登別市の顔となるものであったり、先住民の事を入れる事で、登別をイメージ出来るようにしたらどうかという事で意見をいただきました。

B 委員： ちょっと、さらに続くのですけれども、
「1. 良好な景観と豊かな緑の中で生活する人間をはじめ、あらゆる生物の生存環境の基盤となる水、大気、大地の保全に努める。」

これも前回皆さんと色々な意見を交わしたのですけれども、やはり私は、綺麗な大地や大気にこだわりたいという事で、この文章を提案したいと思っております。

それと基本的に「みどり」というのは、どういうことかというのをこれから検討しなければならないという事だと思うのですけれども、

「2. みどりは山から市街地、海へと連なる大きな面として、景観形成の主軸である。人々の癒やしの場であり、生産地であり、環境保全、防災等、多様な役割をもつ。それらを十分に生かしみどりの質的な向上を図る。」

このように私は考えましたので、皆さんに提案したいと思えます。

会 長： ありがとうございます。前回、「水、大気、大地」という部分のお話があり、

今回このような形でBさんにまとめてもらいましたので皆さんと一緒にお話出来たらと思います。どうでしょうか、まずは一つ目の前文についてですが、以前各グループリーダーに前文などについてまとめてもらったのがA3の資料です。この3案を基に議論し、歴史的な事や地域的な事が記載されたらどうかなど色々なご意見をいただきましたが、より簡潔にというような事で非常にコンパクトに前文をまとめ上げましたが、検証していく中で、もう少し登別の情景や景観が目浮かぶようなものにしたらどうかという事で、Bさんから提案がありました。お配りした資料の中段くらいに赤字で書かれているのが、その案です。資料には載っていませんが、幌別のまちの人からと鷺別の人からだと見るポイントがちょっと違っていたりだとか、登別東町のマリンパークの辺りの人からでは見るポイントが違う訳ですから、そういう気遣いも必要なのではないかというご意見もプラスされています。前文という大事な部分でもありますので、じっくり読んでいただきたいと思います。

C 委員： オロフレ山系というのは、どういう山を含むのかが良く分かりません。らえば公園だとか来馬岳、これは登別の人達は随分口にしますよね。私が思うには、カムイヌプリ、オロフレ山、来馬岳というように続いているような気がするのですが。大概こういう山というのは、水源というか川に関係しているのかとも思いますが、来馬川は来馬岳の方から流れているのですか。

B 委員： 登別の水道水の水源の一つは来馬川ですよ。

C 委員： 登別川もありますよね。登別川はやはりオロフレ山系なんですか。来馬川というのがあるので来馬山系もあるのかなと思いました。では水の源になるという事でオロフレ山系、カムイヌプリもやはりそういう事に関係しているのですか。

D 委員： いわゆるオロフレ山系という名前は存在しないのだけれども、どこをどう切るかによると思います。例えばオロフレとつながっているのはホロホロ山とか徳舜瞥山だと思います。そして峠を挟んで来馬岳ですが、来馬岳までは距離が結構あると思います。オロフレという名前が良いのか山系という名前が良いのかは微妙だと思います。オロフレ山系とは何処を指すのかが分かりません。あと来馬川の事はあまり関係のない事だと思います。

会 長： 一応リーダー会議でオロフレ山系というのを調べたのですが、どこからどこという区割りは分かりませんでした。我々のイメージするオロフレというのは、オロフレ山があって他の山も重なるように繋がっているというイメージですので、B委員の言いたい事というか気持ちは良く分かるので、どういう表現が良いのか悩むところです。

C 委員： まず水源になるという事と、景観として美しいという事を考えれば、私はそれで良いと思います。よく分からないのですが、来馬川というからには来馬岳も山系なのかなと思っただけです。

D 委員： 例えば、登別の人は登別の山といったらどこを指しているのでしょうか。カムイヌプリは幌別側に寄っているので、カムイヌプリではないのは確かだと思います。また、オロフレとなると白老と壮瞥も含まれるので登別市だけではないと思います。こういう認識からすると、登別市民は、どこの山を登別の山と思っているのかというか、愛着を感じているのかなど。登別方面の人や鶯別方面の人はどこの山を登別の山と思っているのでしょうか。幌別町の人カムイヌプリを見ているのでカムイヌプリになると思うが、全市的に考えるとどうなのでしょう。何か象徴的なものがあるならば、ここに載せるべきだと思います。

B 委員： ちょっとよろしいでしょうか。先日鶯別・新生町の在住の人から、「幌別駅から市民会館に向かって行くと真正面に見える大きな山は何ていう名前なのか」と聞かれたのです。カムイヌプリのことです。その時、はっと気が付いたのですが、私たちが当たり前と認識しているけれど、鶯別の人は認識していないのだという事に気付いたのです。

それがひとつと、あと私40数年前から山登りをしてきたのですがけれども、私の個人的な感覚では、オロフレ山系という言葉をしよっちゅう耳にしていたのです。勝手な考えかも知れませんが、オロフレ山系には来馬岳も含まれているのです。以前、オロフレ山系の南西の先に雲が当たると、そこで大量の雨が降る事によって登別はすごく降雨量が多いという事も読んだことがあります。私、先ほどクッタラ火山を追加して下さいと言ったのですがけれども、こないだ気象庁の方で、これから心配な活火山のリストの中にクッタラ火山が入っているのです。日和山も噴火しており、あのあたり周辺をひとつのクッタラ火山という位置付けでちゃんと出てくるのです。樽前山や有珠山と同じ扱いで。だからこれはやはりある程度代表的な山だから明記しといた方が良いのかなという風に考えて、提案させていただいています。先程のオロフレ山系は確かなことは私もわかりませんが。

会 長： 私A案でくどく書いて来たのですがけれども、確か小学校の教科書とかで、登別に雨が多いのは、登別の一番高い山であるオロフレの山に当たって水が落ちると私は何かで読んだ記憶があり、そのようなことで雨の多いところの意味合いとかも含めて、一番高い山を入れれば良いのかなという事だったのでけれども、オロフレ山の繋がったところ、尚かつそれぞれ見えるところから特徴的なものを入れるのか、象徴的なものをひとつ入れるのかということだと思う。

C 委員： 登別を全市的に見ればよいのかもしれないのですが、私は美園町2丁目に住んでいるのですが、ボウズ山があって全くこっちの方は見えない。鶯別岳しか見えないですね。全市的にジオラマ化してみれば間違いなくオロフレ山系、オロフレ岳なのですね。

D 委員： オロフレ山ですね。例えば苫小牧市ならば樽前山だとか、どここのまちは何々山とかいくつもあるだろうけれども、登別といえば山は何ですかといった時に、中々難しいのですよね。必ずしもそうしなくても良いのだけれども、私的にはあえて山を挙げるのならば、オロフレは基本的には、白老や壮瞥といっ

た他所の町の山であり、厳密にいうと登別の山とは言い難いような気はするのですが、観光と訴えれば、エリアだから良いと思うのだけれど。

A 委員： 私は驚別なので、目の前にはボウズ山、校歌にあるのは驚別岳ですが、驚別に住んでいると山で言えば、このような感じになりますよね。今、前文を読ませて頂いて、条例を象徴する部分だったので、B委員が説明してくれた事もよくわかりますし、その思いも含めて内容的には細かな文言は別にして、全体としては良いのではないのかなと思います。

会 長： 象徴するものはオロフレではないというご意見が出ましたが、トータルで見て、登別市の情景をイメージするようなもの、もう少し足したら良いのではないかとご提案はありませんでしょうか。地理的な事もありますので、正確にはオロフレ山系なのかオロフレ山なのか。また、象徴的な部分や先住民族のアイヌ語の語源の事を入れながらという事なのですが、どうでしょうか。たまたま私がくどく入れたのが、A案の中に、活火山や温泉について触れており、語源についてはちょっと書いていないのですが先住民族についてはアイヌ文化という事で触れ、幕末まで戻って伊達藩と片倉家の事をちょっと入れてみたりだとか、あとは、登別市は四地区に分かれているみたいな事だったので温泉、登別、幌別、驚別という事に触れておりました。このように地名で簡単にいってしまうところを、B委員は山で表現したかったのかなと思います。驚別岳があってもカムイヌプリがあつてのように。オロフレはちょっと違うとのことですが。

B 委員： 私があえて山を入れたのは、山は、みどりのおおもとのような感じなんです。高い山はないのですが、私から見れば代表的な山に囲まれたまちで、その山があるために色んな川があるということ、ここで謳いたかったのですよね。A3のA案B案C案は、皆さん工夫されて沢山書いて貰っているのですよね。要約した前文だったらあまりにもこうダイジェストすぎるというか、もうちょっと文章を入れても良いのではないかなと思います。

会 長： 資料にあります、他市の条例の前文は、素案に文章が似た感じで、情景が浮かぶような前文になっています。私は個人的に、このような感じで、聞いただけで登別市の景観がイメージできるので良いなと思いました。山はみどりの元であつて、登別市の背景は、この山に囲まれていて、この山からは、さらにみどりの元の水の川が流れていてということから、やはり山をこう入れたいとか、代表だけではなくて、ひょっとしたら、そのような山々があるのだよという意味があるという事ですよね。

B 委員： 要するに自然環境が多様なという事を、私は前文で謳いたかったという事なのですね。ぱっと見た時に、こういう景観を有するまちなのだとイメージさせられると良いかなと思ったのですが、海に面してないところも沢山ありますものね。

会 長： 驚別岳、カムイヌプリ、登別の方だとフンベ山や日和山でしょうか。

B 委員： 日和山とかあの周辺は、要するにクッタラ火山ですよ。

会 長： 倶多楽湖は隣のまちですが。

B 委員： 火山は登別じゃないですか。

会 長： そういう山々がこう点在していることが背景にあって、みどりの元であり、そこから多くの川が市街地に流れて、海である太平洋へということで、書いてみました。太平洋については、単なる太平洋ではなく、スケトウダラが来たりだとかくどく書いてみました。

C 委員： 私が発言したことでおかしくなってしまったのですけれども、私が景観とみどりといえば、カムイヌプリや、登別市になくてもオロフレ岳の未だに雪を抱いた情景は、景観的には良いですものね。夏になるとみどり豊かになるのですから。この言葉で良いと思うのです。ただ、来馬川というのがあったので水源であるということから来馬岳ということについて聞いただけで、何か私が発言してからおかしくなって申し訳ないのですけれども、私はこの文言で良いと思うのです。景観とみどりという事では、オロフレ山系とカムイヌプリといのは、すごく良いイメージなのですよ。

会 長： 西は鷲別岳、カムイヌプリ、オロフレ山を有しなどと山の名前をちょっと取りばめますか。それとも代表的な山を入れるようにしますか。B委員の意味合でいうと、みどりの元であるそういう山々があるのだよという事が入っていないと、登別の情景が浮かばないということですが。

E 委員： カムイヌプリとオロフレ山系を入れるくらいがちょうど良いのではないのでしょうか。あんまり細かく入れてもどうなのかと思いますけれども。最初の前文より、B委員の案の方が、何かこう易しい感じで読みやすいようになっていると思います。

B 委員： 西とか東はやめた方が良くないかと思いました。鷲別から見たらカムイヌプリは西ではないですよ。私は幌別に住んでいるので、幌別を中心にしか考えていなかったのです。だから西とか東とかの方角は、この際やめた方が良くないかと思ったのです。

会 長： 方角は抜いて、「登別はカムイヌプリ、オロフレ山系など」にするか、「オロフレ山系を中心に」にするか。山系という言葉がどうなのかという意見がありますので、「オロフレ山」という表現でよろしいでしょうか。鷲別方面の山は入れなくて良いですか。

C 委員： 山系というと山々が含まれるととってよろしいのではないのでしょうか。

会 長： 私はそのイメージであって、付近の山々が含まれるという意味で、オロフレ

	<p>は向こうの山だという感じでは取ってないですね。</p> <p>B 委員： 山系の方がもやっとした感じで周辺も含まれるよという、幅を持たせられるのかなと思います。</p> <p>会 長： 固有名詞ではなく、そういう意味合いを持たせる意味で系を入れるということですね。</p> <p>B 委員： 私は何かで「山系」と読んでいるのですよね。</p> <p>会 長： 水はオロフレ山溪水と言っていますよね。オロフレ山溪水の溪というのがこの系ではないかもしれませんが。溪流の溪かもしれませんね。あまり沢山入れてもおかしいということですが、オロフレだけではその意味合いはちょっと足りないので、中心のカムイヌプリを入れて、アイヌ語の語源の部分も入れるということでもよろしいでしょうか。鷲別方面から見た場合も考慮して、方角は除いてカムイヌプリ、山系という言葉についてはもうちょっと確認するとして、オロフレ山という感じでもよろしいでしょうか。</p> <p>こんな感じであとはどうでしょうか。温泉に関する事で原生林と活火山という意見がありましたが、活火山というとクッタラ火山という言葉を書いたらどうなのでしょうかね。倶多楽湖というとひょっとしたら白老と思う方もいるかもしれませんが、要は温泉は、そういう活火山があって存在するという意味で。それともクッタラ火山ではなく、大湯沼なのか、日和山なのか。皆さんから見て日和山や大湯沼、地獄谷とはどういうものなのでしょうかね。A委員、登別でイメージするものや期待するものとはどのようなものがありましたか。</p> <p>A 委員： やはり温泉ですね。</p> <p>会 長： 登別温泉でいうと、お湯の種類が豊富で13種類でしたか。温泉だけではなくて海や山もあり、登別ブランドもありますよとか。登別原生林というと場所的にはカルルスや温泉とかのところですか。</p> <p>B 委員： そうではなくて遊歩道のあるところですよ。遊歩道一帯の事を原生林といいます。温泉の種類13種類というのは日本ではあまりないですね。</p> <p>会 長： 多いですね。温泉の種類が豊富な温泉銭湯という言い方もして、13種類が確かかどうかはわかりませんが、色々な湯泉、泉質のものがあるとされています。</p> <p>F 委員： 素案にある「豊富な湯量と多種類の～」の多種類の「多」は、B委員の案では、とってしまったのですか。</p> <p>B 委員： そうですね、落としていますね。</p> <p>F 委員： 抜けているだけですか。</p>
--	---

B 委員： はいそうです。私は具体的な数字を入れても良いのではないかと思うのです。もし13種類であれば、13種類と。日本でも屈指だと思うのですよね。

E 委員： 今13種類でしたか。11種類が9種類に減ったのではなかったでしたか。だから、また変わるかもしれませんからね。

会 長： その表現が多種類の泉質という表現ですね。

D 委員： 種類が入ってしまうと、種類の泉質とは意味がよくわからない。どういう意味になるのか。単純に、種類を削っても、「豊富な湯量と泉質」で意味は通じると思う。

会 長： 豊富などというのは両方にかかるのですね。豊富な湯量と泉質という事ですね。次に「登別原生林や活火山を擁する秀れた景勝地」というところについてであります。ここに登別原生林やクッタラ火山という文言を入れるのかということですが、どうでしょうか。

D 委員： 景勝の地というのはどこなのでしょう。

会 長： 地獄谷、大湯沼、日和山でしょうか。

D 委員： 日和山は違うのではないのでしょうか。

会 長： それでしたら、まず地獄谷でしょうか。大湯沼に行ったら、大湯沼の奥に日和山があつて、昔、漁師さんやまちの人は、日和山の煙の方向性によって天気を見たと言われていました。活火山という事を登別らしい固有名詞で挙げるかどうかということですが、景勝地だから挙げた方が良いでしょうね。活火山と言ってしまうと、大湯沼や地獄谷、日和山も全部が含まれてしまうので。

B 委員： 地獄谷と聞いた時に、私たちはわかっているから良いですけども、ぱっと何を想像するのかなと思ったのです。

会 長： 他所から来た人は、地獄谷と聞いてもわからないかもしれないですね。逆に、それがまた、「地獄谷とは何だ」と思わせて良いのかもしれないですね。

B 委員： それはまた面白いかもしれませんね。

会 長： 活火山と言えば噴火するのかなと感じる。それとも、「地獄谷などの活火山」とすべきか。

F 委員： 地獄谷にしる、大湯沼にしる、単語は出て来ないですよ。

会 長： 入っていないですね。温泉で何か固有名詞が入っているものはありませんか。

B 委員： 登別温泉が下だからパンケ湯、カルルスがヘンケ湯となっていたのです。

E 委員： 地獄谷というのは、いつからそのように呼ばれるようになったのでしょうか。

会 長： それは通称なのでしょうか。

E 委員： 地獄谷と記述して良いのでしょうか。

会 長： ひょっとしたら地図には載ってないのかも知れませんが、鬼が地獄の中から出て来た事から地獄谷と呼んでいるのかも知れません。

D 委員： 50年も60年も前からありましたよ。

E 委員： その前からアイヌ語であったのでしょうか。

D 委員： 認識されていなかったという部分はあったのかも知れませんが、今は地獄谷と書いてあるはずですよ。

会 長： ひょっとしたら先住民族ではなくて滝本金三さんとか、そういう世代の方々が開拓した時に付いた名称かも知れませんが、アイヌ語の語源が入っていないかも知れませんがね。

D 委員： 景観だから地獄谷という言葉は入っても良いと思う、国土地理院の地図にもちゃんと地獄谷と出ているし、認知度は結構高いと思いますよ。私も子供の頃から知っていますし。だから景勝景観という事を考えると地獄谷というのは出てきたら良いと思います。要するに眺めてよし、あるいは行ってよしという事でなければ、景勝地であるとか景観に繋がっていかないと。この条例の精神は、そういった景勝地を、ある場所から眺めて感動したり、自分たちが生きている事の大切さとか、自然に関わる事が大事だよという事に気付かされるような条例になっていくと思うのです。そういう面ではカムイヌプリもそうなのかも知れませんが、地獄谷のような登別を代表する景勝地とかは簡単に上げて良いと思います。

会 長： 湯気が出ているとか生きている代表格として、地獄谷などの活火山を表現してはどうでしょうか。

D 委員： 登別にはそこしかないのでしょうか。登別温泉オンリーなののでしょうか。

会 長： 温泉に行くと温泉に入るだけではなく、ちょっと観光するとなると地獄谷や大湯沼をまわって倶多楽湖に行くと思います。

D 委員： それが実態ですよ。登別温泉しかないのです。登別イコール登別温泉になってしまうのです。地元の人にはそうではないと思いますけれど。もう少し何か

	<p>があってアピール出来るのが一番良いとは思いますが、別に市民向けの条例だから他にはアピールしなくても良いのかも知れませんが何か寂しいですよ。最初の時に議論した、どこそこの海が良いとか、ここから眺める山が良いとか、色々ありましたけれども、そういうものがどこかに盛り込まれる文章になれば良いと思います。結局そこに揃っているのが温泉に偏ってしまうのは仕方がないのですけれども。</p> <p>会 長： 代表格の固有名詞を一つ入れるとすると、地獄谷以外にはないのかという事ですが、地獄谷が良いのではないのでしょうか。くどくない範囲で入れますか。地獄谷が良いですか。</p> <p>D 委員： 日和山は駄目なのですか。白煙も出ており眺めるのには結構良いと思います。</p> <p>会 長： そうですよ。盛んに湯気が出ていますし、展望台もあって大湯沼も望めると思います。日和山というのは登別の方には知られていますが、どうなのでしょう。地獄谷の方が良いのでしょうか。</p> <p>B 委員： 地獄谷や日和山の活火山としてしまうと、ちょっと長くなると思いますけれど、白煙を上げている活火山というのは売りだと思います。</p> <p>会 長： 地獄谷も活火山なのですか。</p> <p>B 委員： そうです。あそこは倶多楽火山なのです。大湯沼とか地獄谷とか日和山の一带は全部活火山で倶多楽火山として総称されています。</p> <p>会 長： そうすると「地獄谷などの倶多楽火山を有し」となるのでしょうか。ちょっとくどいですかね。</p> <p>G 委員： 固有名詞は入れなくて良いのではないのでしょうか。</p> <p>会 長： 活火山が良いですか。登別原生林はどうしますか。</p> <p>B 委員： 私は入れたほうが良いと思います。みどりの条例でもありますので。</p> <p>会 長： 活火山というよりは登別の地名とか固有名詞とかを入れたほうが良いのかも知れませんが。</p> <p>C 委員： 一番中心になるというと倶多楽火山になるのですか。</p> <p>B 委員： 倶多楽火山ってあまり知られていないですよ。</p> <p>C 委員： でもそういうものを入れるとすれば、「登別原生林や活火山を擁する」というところを、「また登別は活火山を有し温泉は豊富な湯量と泉質を誇ると共に特徴ある登別原生林なども残っています。」として、「国内外から多くの人々が訪</p>
--	--

	<p>れる観光地として発展するなど」と繋げれば、火山の名前も入れられて良いのではないのでしょうか。</p> <p>会 長： 固有名詞は入っていないですね。どこにも名前が入っていないですね。</p> <p>C 委員： 名前は入っていないのですが、その活火山というところに倶多楽火山を中心としたとかにすれば良いと思ったのですけれども。日和山も地獄谷も大湯沼も全て倶多楽火山なのですね。</p> <p>B 委員： そうなのですよ。地獄谷は爆裂火口なのです。</p> <p>C 委員： 私が子供の頃の地獄谷はとても恐ろしかったのですよね。ぐつぐつ煮えたぎっていて、よく自殺したとかという話も聞いていました。見学旅行などで来た子供なんかは怖くて近寄れなかったのです。今なら全然そういう面影はなく、何か春の小川が流れているような感じで、間欠泉もほとんどないです。昔は凄くて本当に地獄谷というイメージでした。</p> <p>D 委員： 形容的な文章というのは何か入らないのですか。羅列するだけではなく活火山の凄さを暗示できるような言葉は入っても良いと思います。そこの活火山だと常に白煙を上げていますよね。例えば地獄の底から白煙うんぬんかんぬんとかとすれば良いのではないのでしょうか。何か羅列だけしても文章的に面白くないと思います。私の日和山の印象としては白煙と荒々しさなのです。そういうものをうまく言葉で表し、そして未だに活火山というのを入れ、さらにプラスして地獄谷という言葉を入れると良いのではないかと思います。原生林は同じ羅列箇所には多分入らないと思うのです。活火山と原生林とは特別関係のない事ですので。活火山があったから原生林が出来たという訳ではないのです。</p> <p>C 委員： 別ですね。活火山と原生林は。</p> <p>B 委員： 私は逆に考えたのですよね。温泉もあるのだけれども自然もあるのだよと、みどりの景観もあるのだよという事で、登別原生林という事をあえて入れたのです。</p> <p>会 長： 別物だよという事ですね。</p> <p>B 委員： 多様だよという事を強調したかったという事もあって、原生林を入れたのです。</p> <p>C 委員： 思い付きでもう一度言いますが、「日和山や地獄谷を中心とした活火山が豊富な湯量や泉質を」とすれば良いのではないかと思います。そうすれば活火山が入りますし、日和山と地獄谷といった、みんなが知っているものも入ると思ったのですが。</p> <p>E 委員： 最初に持ってきたらどうでしょうか。「また地獄谷とか日和山の活火山の恩恵を受けた登別温泉は豊富な湯量と泉質を誇ると共に」というように。原生林</p>
--	--

	<p>は別に位置付けして、貴重な動植物がいるのならば、それらの事を書いてから原生林に繋げれば良いと思います。登別温泉は地獄谷とか日和山の活火山の恩恵を受けて出来ていると思うので。</p> <p>会 長： ひょっとしたら活火山とか何かこう別の表現で。今も地球の息吹が感じるとか、吹き出るとか。</p> <p>D 委員： 多分そのような感じだと思うのです。それに続いているという事と間近に見られるという事が書いてあれば良いと思います。</p> <p>会 長： 聞いただけで実際の湯気とか湧き出ているイメージが出来るといいですね。</p> <p>D 委員： 活火山をイメージ出来るような形容詞を付ければ良いですね。</p> <p>C 委員： 恩恵という言葉が出ましたけれど、とても良いと思いました。</p> <p>B 委員： E委員、もう一度言っていただけませんか。</p> <p>E 委員： 「地獄谷や日和山等の活火山の恩恵を受けた登別温泉は、豊富な湯量と泉質を誇ると共に」という感じでしょうか。</p> <p>B 委員： 良いのではないのでしょうか。</p> <p>会 長： 出来れば活火山が目には浮かぶような感じが良いですね。よろしいでしょうか。</p> <p>事務局： 原生林は消えたのですか。</p> <p>E 委員： 原生林も何か言葉を足していただければと思います。</p> <p>会 長： 何が原生林の代表格なのでしょう。</p> <p>B 委員： 分かりませんが、要するに人の手が入っていないという事ですね。大正時代に指定されたのでしょうか。</p> <p>会 長： 原生林という言葉の意味が良く分かりません。</p> <p>B 委員： 要するに人の手が入っておらず、昔のままだという事だと思うのですが、私のイメージする原生林はこのような事ですが、そういうものはあまりないのです。</p> <p>D 委員： 見える所にはないです。あそこは原生林を売りにするのは何か厳しいような感じがします。ただの遊歩道ですから。例えば地獄谷の荒々しさなどといった景勝の観点でいったほうが良いと思います。確かに登別原生林は地図にも載っているのですが有名なのかも知れませんが、あまりインパクトがないと思います。</p>
--	--

	<p>特別貴重なものでもないような気がします。</p> <p>B 委員： 原生林というのは何カ所くらいあるのですか。</p> <p>D 委員： 指定されている箇所は限られているとは思いますが、実際に人の入っていない所はいくつもあると思うのです。人の入っていない程度にもよりますが、どこを入っていないというか。鉾山のずっと奥に行ったら人が入っていないような所はいくつもありますが、でもそういう所は言わないですね。</p> <p>C 委員： 植林されていないという事ですね。</p> <p>D 委員： そればかりではないと思います。北海道の特徴としては森の下は笹なので、あまり綺麗ではないですね。あえてこの原生林を言葉の流れとかで入れたほうが良いのであれば入れても良いとは思いますが、先程言ったように景勝か景観の観点から活火山と地獄谷みたいな感じで入れれば良いと思う。その原生林はどちらかというと中を歩けるという雰囲気なので、前文に載るほどでもないのかなという気がします。登別はその程度しかないのかと言われると辛いんですけど。</p> <p>C 委員： 地獄谷のボランティアの方々が観光案内をする時は、遊歩道を歩きながら残っている原生林とかを案内するのでしょうか。</p> <p>B 委員： 主に温泉の事を解説していると思います。</p> <p>C 委員： 私もどこを原生林というのかは良くわからないのですが。</p> <p>会 長： 天然記念物に指定されていたのではなかったでしょうか。</p> <p>B 委員： 大正時代に指定されているはずなので、結構歴史があるのではないかと思います。やはりこれもひとつの特徴だと思うのです。</p> <p>会 長： 「天然記念物に指定された原生林」は良いですね。原生林というと皆さんは手付かずをイメージするという事ですね。</p> <p>B 委員： 人出の入っていないという事ですね。</p> <p>会 長： それがもし大正時代からだとすると凄い事ですね。「天然記念物に指定される原生林」とすると、何か品格みたいなものが上がりますよね。</p> <p>B 委員： 何か上がりましたね。天然記念物が付くと。</p> <p>H 委員： 国立公園か何かになっていませんか。</p> <p>会 長： 「国立公園に指定されている」となると何かまた品格が。さらにもう一度練</p>
--	--

	<p>り直さないと言が作れませぬ。その原生林が火山噴火の溶岩か何かで埋もれて炭化した物が高速道路の工事の時に見つかったのですよね。確か紀元前何千年の貴重な物ですよね。</p> <p>B 委員： 6万年前くらいでしたか。確か気候的に寒い時だったみたいですね。グイマツが何か炭化したものが見つかったはずですね。</p> <p>会 長： ただ原生林といってもあれですから。国立公園とか天然記念物を入れて。</p> <p>D 委員： 原始林となっているはずですね。</p> <p>B 委員： 原始林なのですか、原生林ではなくて。</p> <p>D 委員： 言葉の使い方でおかしい事になるので、載せるのであればきちんと調べたほうが良いと思います。</p> <p>会 長： 原始林だとさらに何か良い感じがします。B委員から提案のあった原生林は残すという事で良いのでしょうか。アイヌ語のヌプルベツという言葉が出て来ましたが、これはどうでしょうか。ちなみに登別のフンベ山はくじらの頭でしっぽが鷲別岬だったはずですね。</p> <p>B 委員： 胴体が鷲別岬、頭が登別です。</p> <p>会 長： 海に流れ着いたくじらの肉を売っていた名残りというのか、実際に鷲別神社にはくじらの背骨があるので、まんざら嘘でもないと思います。フンベ山伝説というのがテレビ日本昔話で放送されていました。</p> <p>F 委員： この部分は、以前の前文を決めた時の会議でも議論されており、本日用意している「第9回市民会議の意見概要」の中にもいくつか書かれています。上から6番目に、「歴史的なものは残していきたいと思うが、わざわざ文章に盛り込む必要はない」というのと、8番目に、「歴史等様々なものを盛り込む必要はない」という意見がありました。私はこれを見て初めて気付いたのですけれども、逆に2番目には、「盛り込んで欲しい」という両方の意見があるのです。あの時は結局、それではどうしようかという意見を戦わせる事なく、簡潔なものが良いだろうという事で、C案の方が良いでしょうということになり、特に歴史的なものを入れる事についての意見の出し合いという事はなかったと思うのです。今回、歴史的なものを入れる事に関して、以前の経緯からいえばどうなのかなという気がします。</p> <p>会 長： 両方の意見があり、それに対してどうですかという事の議論はなく、簡潔なほうが良いという事でこのようにしたのですね。</p> <p>F 委員： 簡潔なというのは皆さんの意見の中で指示を受けたのだと思います。それで議論する事なく、Cが簡潔な文章という事で決まったという経緯だったはずで</p>
--	--

す。

会 長： どうでしょうか。両方の意見がありますが。

B 委員： 私も今思い出したのですけれども、会議の中で簡潔な文章にしようという事だったと思います。色々な事を忘れておりますが、確かにそういう話があったと思います。ただこの2年くらいの中で色々な条例を見る機会がありましたので、同じような景観条例とかを見てみると、結構他のまちでは具体的に書かれているところが多いのです。まして、まちは一つではないですから、色々な地区の特徴を長い文章できちんとまとめています。先程どなたかの意見で、もう少し形容的なものも盛り込んだほうが良いとありましたが、私も時間が経つにつれてそのような考えが出て来ており、先程も説明したように、この原文を読んだ時に登別らしいイメージが出来るもの考えたのです。その当時に言えば良かったのですけれども、その時は思い付かず時間が経つにつれて出てきたのです。そう考えた時に出て来たのは、やはりアイヌ語地名でした。そのアイヌ語地名はまだ残っている訳なのです。一般の方はあまり知らないと思うのですけれども地図にも残っていますし、未だにその地図を持って行けば辿り着けるという事が多いのです。それでやはり登別は、知里真志保とか知里幸恵の出たまちでもありますので、これも一つの登別の特徴であり、景観とかみどりにはそんなに関係のない事かも知れませんが、アイヌ語地名で付けられた景勝地もあるという事で、私は今回復活させてみた訳です。

会 長： 以前のまとめを見ると、何か逆の意見のほうが多いですね。「これはあくまでも景観・緑化の条例であるから、綺麗なところは守り、綺麗でないところは綺麗にし、みどりのないところにはみどりをつくることを主にすべきで、歴史・文化・産業・観光にはあまり触れないほうが良い」など、簡潔にまとめたほうが良いという意見が多くあって、このようにまとめたのですね。

G 委員： 入れるのであれば、最初の「私たちの住むふるさと登別は」の後に、「アイヌ語ヌペルペツ（濁った川）が語源であり」という文言をいれ、「カムイヌブリ、オロフレ山系を背に～」と続けたほうがすっきりとおさまると思います。

E 委員： 「アイヌ民族の伝承が残る文化とロマンの香り漂うまちです」というのは、何か素敵な感じがします。

G 委員： 簡潔にするのであれば、そういう方法もあるのではないかという事です。

F 委員： 議論されていないのは、現在の「景観」と「みどり」というものが、アイヌの歴史あるいは文化、それから入植に入った我々の先祖ですね、その人たちの歴史や文化というものが関係しているのか、それとも関係していないのかという事だと思うのです。今までの意見の中で、景観と緑化なのだから歴史は関係ないだろうという意見の人は、そういったものは関係しないよという発言だと思うのです。一方でそれらについて入れて欲しいという人は、そういった歴史や文化の上に今の「景観」と「みどり」が成り立っているという考えだろうと

思うのです。私自身の考えを言えば、特に景観というのは歴史的な流れの中でつくられてくるのでしょし、景観の質そのものがその人たちが持っている文化、それから景観のありようが決まってくるようなところもありますし、特にアイヌについては独特の自然観を持っていますし、その自然観の基に自然に接してきたという歴史がありますから、そういったものの上に、今の我々が考える「みどり」とか「景観」というものが成り立っているのではないかと私はそう思うのです。ですから、この前文の中でそういった歴史的な事に触れるのは、ある意味当然ではないかと思えます。

会 長： 根本的な考え方ですね。必要ではないという意見も多数あり、そのようにまとまりましたが、やはり歴史的背景があって今の景観がある訳だから入れるべきだというご意見です。語源については分かりませんが、歴史的背景は入れるべきだという事です。

E 委員： 入れて良いと思います。胆振とか日高というのはアイヌ民族がたくさんいて、その後に和人が来てアイヌ民族を排除しようとした歴史背景がある訳で、そういう歴史的背景で今の自然が生まれて来ているという事なので、入れても良いのではないかと思います。

会 長： 歴史的な事を入れた方が良いというご意見ですが、どなたか反対意見はありますかでしょうか。どのように入れるかという事になると思いますが、歴史的な事を入れるという事でよろしいでしょうか。反対意見はないようですね。歴史的な事はあまり多くはないようですが語源程度で良いのでしょうか。

E 委員： あまりダラダラ書くのも良くないと思います。

B 委員： 私は語源から入ったのですが、F委員の指摘されたとおりアイヌの人は自然の中で暮らしていたのですよね。何十年も自然と共生していたというか、私はうまく言えませんが、それらの事を何か上手に表現出来たら良いと思いました。

会 長： 「銀の滴降る降る」なのか「銀の滴降れ降れ」なのかという事で言えば、知里幸恵さんと知里真志保さんでは違う言い方をしますが、その言葉の表現の仕方により自然の情景を捉えていた訳ですよね。B委員が言われるように、自然と共生していたという事を表現出来れば良いですね。それこそ、文化・ロマンが香り漂うという事だと思います。

事務局： 歴史や文化を築いてきたというのは、アイヌの人たちが中心であるという考え方の基で、お話しされているという解釈で良いのでしょうか。以前の話の中で、歴史をつくったのはアイヌの人たちだけでなく、和人の人達もそういった歴史を築いているはずなので、先人達という言葉でまくってはどうかといった話合いを行ったような気がするのですが。

E 委員： アイヌ民族が自然の恵みを天の恵みのようにして共生していたというか、そ

	<p>のような自然の良さもまだ一部残っているという意味合いだと思います。</p> <p>B 委員： アイヌの人たちだけを取り上げるのはどうかという思いはあったのですが、私のイメージする先人達は明治以降に入ってきた人たちなのです。私はこの部分はすごく考えました。</p> <p>会 長： 気遣う部分だと思いますね。</p> <p>B 委員： そうですね。「先人達」という表現で皆さんは分かるのでしょうか。</p> <p>会 長： それでかつて私の提案では、「アイヌ文化が芽吹き、幕末、伊達藩片倉家が開拓の先人として」というように細かくしたのです。でもその時代から自然が素晴らしいまちであると言いたいのであれば、意味合いが違ってくるのではないかと思います。和人というのは差別用語になるのでしょうか。開拓民というのは良いのでしょうか。その時代の方々もきっとみどりを大切にしているのですよね。ただ開拓するだけではなく、残すべきものは残したという事です。</p> <p>E 委員： 先人を、どの時代の人たちだとは言いきれないでしょう。</p> <p>H 委員： 片倉小十郎は開拓民なのですか。向こうで危なくなると、北海道にやって来たのではないのでしょうか。</p> <p>B 委員： 今、八重の桜でやっていますが賊軍ですね。用地を没収されたら藩主も家来も食べていけないので登別に来て、その後、札幌の白石に行ったと思います。</p> <p>会 長： 今のご意見は、アイヌ民族だけが「みどり・景観・自然」を創ってきたわけではないという事です。</p> <p>F 委員： 両方書いても良いのではないのでしょうか。文章は少々長くなると思いますけど。</p> <p>会 長： そうしますと、まずアイヌ語の語源について記載し、知里幸恵や知里真志保さんの「銀の滴降る降る」などにも触れると、文化・ロマンの香る文章になると思います。その後に、伊達藩から開拓の人々がやってきたと続ければ良いのではないのでしょうか。</p> <p>F 委員： 小十郎の話も良いのですが、自分が書いた文章になりますが、B案の中の例文3の後半の部分、「また、開拓に携わった先人たちの苦労と創意によりまちづくりが進展し、現在につながるまちの景観が創造されました。」、この程度の歴史で良いのではないのでしょうか。</p> <p>B 委員： 私は文化やロマンにこだわらないので、アイヌ民族がいてこういう事がありましたという事が言いたかった訳で、例文3がアイヌの事についてうまく書い</p>
--	--

であるので良いと思います。

会 長： 「かつてこの地にアイヌ民族が歴史を刻み、現在の地名の語源となったアイヌ語地名や景観にまつわる民話を残しました。また、開拓に携わった先人たちの苦勞と創意によりまちづくりが進展し、現在につながるまちの景観が創造されました。」となっています。

B 委員： リーダー会議でまとめてもらってはいかがでしょうか。

会 長： このような感じで歴史的な部分を入れまして、「先人」というのはアイヌ民族であるし、その後開拓に入った人々の全ても「先人」であるため、固有名詞は入れないという事ですね。そういう事でよろしいでしょうか。例文3をさらにコンパクトにして、固有名詞は入れないという事です。

F 委員： 一つよろしいでしょうか。B委員（案）の下から3行目ですけど、「私達登別市民は先人達が培ってきた」となっていますが、「培って」で良いのでしょうか。原文の方では「育んできた」となっていますけど。

会 長： そうですね。「先人たちが育んできた」になっていますね。

B 委員： 前の文章の流れからいって、「培って」が良いのか、「育んで」が良いのか、私は分からないので、これについてもお任せしたいと思います。別に「培って」にはこだわりませんので。ただ「培って」の方が汗と涙をよりたくさん注ぎ込まれているような感じがしましたので、「培って」にしたいと思います。

会 長： 「育む」より「培う」の方が手をかけているという事なのではないでしょうか。それで意味が違うと言うか、より手をかけてきたという事を言いたかったのでしょうか。

B 委員： そうですね。辞典がないので正しい事は分からないのですけど。

H 委員： 「育む」は、親鳥がひなを大切に守り育てるという感じでしょうか。

会 長： 同じ意味合いではないのでしょうか。動物の場合は「育む」ですけども、植物の場合は「培う」という事にでもなるのでしょうか。そうすると、みどりに関する事なので「培う」という表現になるのでしょうか。

E 委員： この「培う」というのが、自然環境と景観と文化にかかってくるのですよね。その3つにかかってくるならば、どちらの言葉が良いのかという事ですね。私もよく分かりませんが、みどりだけではなく景観や文化にもかかってくると思います。

C 委員： 言葉の調子としては、後ろのほうに「守り、育て、生かす」と書いてあり、真ん中に「育て」とありますから、「育む」とするよりは「培う」の方が相対

	<p>的に良いと思います。</p> <p>会 長： 真ん中に「育て」とありますから、「培う」の方が良いという事ですね。</p> <p>C 委員： 文字だけを見ると何か狭い範囲に思えるので、「培う」の方が大局的な言葉になるように思います。</p> <p>会 長： 「培う」でよろしいでしょうか。</p> <p>F 委員： もう一つよろしいでしょうか。「景観」の次に「文化」が挿入されておりますがよろしいのでしょうか。原文には「文化」というのはありませんが。</p> <p>会 長： この「文化」にも当然意味があるのですよね。</p> <p>B 委員： そうです。アイヌの人たちも文化を残していますよね。一番有名なのは「アイヌ神謡集」だと思います。</p> <p>会 長： 自然があって、文化が生まれているという事ですね。</p> <p>F 委員： 文化の上に成り立っているという事は分かるのですけれども、この条例はみどりと景観に関する条例ですので、なるべくこれ以外の言葉は入れないほうが良いと思います。ですので、原文のままのほうが良いと思いました。</p> <p>E 委員： 原文を作る時に、当初の素案にあったものを消したのでしょうか。</p> <p>F 委員： 当初の素案には文化は入っていたのでしょうか。</p> <p>E 委員： 確か当初は入っており、「文化」は要らないのではないかという事になり、今の原文になったと思います。</p> <p>F 委員： そうですね。原文を見ると当初の素案から「歴史と文化」を消したのですね。</p> <p>E 委員： これは景観・緑化の条例であるという事から、歴史や文化の部分は不要であるという事ですね。</p> <p>F 委員： そうなりますと、文化を省くか、あるいは文化だけではなく、当初の素案通りに、歴史と文化を入れるのかという話になると思います。</p> <p>E 委員： 入れないほうが良いと思います。「まちづくり条例」とかであれば別ですが。</p> <p>H 委員： 条例の前文ですから、歴史や文化に関する記述があっても別におかしくはないですね。条例の中に出てきたら不自然だとは思いますが。あってもなくても、どちらでも良いような気もします。</p>
--	---

	<p>E 委員： あまりこだわる必要はないのでしょうか。</p> <p>C 委員： 歴史や文化が先に来たら問題ですけども、例えば景観なり、みどりなりを一生懸命培ってきた歴史というようにとれば、歴史という言葉は入ってもかまわないと思いますが、歴史や文化が前にくると独立してしまうような感じがします。以前、緑化推進協議会の時に、「みどりの部会」というのがありまして、その中に「花」と「木」と「みどり文化」という3つの部会があったと思います。そこで登別市の特徴的なものを写真などに残すことを専門としていた部会があったのです。みどりを中心とした登別の文化ですね。歴史や文化を先にもっていくと、我々が普通に思う歴史という感じがしますが、みどりとか景観づくりの歴史とか、それから時代によって変わって来るみどり文化というか、景観文化というのかは分かりませんが、そのように捉えれば良いのではないかと思います。先人達が培ってきた歴史というか、みどりを守ってきた歴史という事ですね。</p> <p>会 長： みどりの文化、花の文化という事ですね。文化というと文明開化じゃないですけど、何か別の事のような気がしていました。</p> <p>C 委員： まあ何か人の心を和ませるものですね。いまさら文化の定義じゃないですけど、人のためになるものをつくるという事が文化じゃないのでしょうか。ですから、美しいみどりをつくり上げるのは文化だと思います。</p> <p>会 長： 私の頭ではちょっと難しいのですが、文化の定義という事ですね。花の文化とかみどりの文化といえ分るような気はしますが。</p> <p>C 委員： みどりの文化というのは、木とか花の事だと思っていたのですが。</p> <p>会 長： そういう文化と、文化・歴史の文化とは違うものではないのでしょうか。</p> <p>C 委員： そうですね。ですから論議をして下さい。</p> <p>H 委員： 景観は人間がつくるものではなく自然がつくるものですから、文化ではないように思います。</p> <p>B 委員： よろしいでしょうか。先程、知里幸恵のアイヌ神謡集に触れたのですが、文化というのは、例えばこのみどりの中の文化というのは、景観とかみどりの中で人間が関わって色々な活動・行動をしていくと思います。例えばフォレスト鉾山で、木育とか森の中で色々な人たちが関わって、色々な事を仕掛けて、色々な活動をしていますよね。そういう活動を一括りに文化ではないかと思うのです。ですから私はここに文化と書いてある事に違和感はありません。</p> <p>会 長： 先程言いましたが、文化というと文明開化とか開拓といった感じがします。</p> <p>H 委員： 人がつくるのが文化だという事でしょうか。私は景観というのは自然が創る</p>
--	--

ものだと思います。人間が手を加えたら違うと思います。

F 委員： 自然景観は確かにそうですけれども、建築物による景観は人間がつくるものだと思います。

C 委員： ですから、文化についていいますと、平安時代の庭園、室町時代の庭園、江戸時代の庭園、そして現代の洋風な庭園も文化ですよ。それから建物もそうですよね。古代ローマの建築だとか、日本でいう法隆寺とかの木造建築だとか、現代の高層ビルなど、そういうものは全て文化といえますよね。そして、自然とかみどりは庭園などに関わる事によって更に人の目を潤すだとか、そういうのを全部含めて文化というのではないのでしょうか。それにこだわる訳ではないのですけれども、みどりにしても景観にしても、やっぱり「文化」という言葉は使って良いと思います。先人達が培って美しい自然を残すためにした事ですとか、街並みだとか、そのような事だって文化と考えて良いと思いますし、色々と苦勞してきた歴史があるというように考えれば、景観や緑化の後ろのほうに文化や歴史を付けても良いと思います。

D 委員： 今のお話は景観・緑化の意識を持つような文化をつくるという事でしょうか。私が今お話を聞いていて思ったのは、緑化とか特に自然に関する事で、例えば子供達が自然に親しむ事を文化として学校教育の中でやっていきますというような空気をつくっていくという事を文化と捉えていますけど、景観・緑化の条例の中での文化の話だとすると、登別市民がそのような機運になっていかなければならないという文化を作り上げていくという事だと思います。言葉の意味ではなくて、そういう風土・文化をつくっていかなければならないという事だと思うのです。先人達がつくり上げてきたことを継承して、我々も同じように次世代に継承をして行く事だと思います。言葉が入るのか入らないのかは分からないですけど、文化を取り違えないようにしたほうが良いと思います。そういう風土・空気感をつくって行く事が大事かと思います。

C 委員： 今やっている事は後で評価されると思うのです。何年か後にこのように苦勞してやってきたという事で評価を受けるのではないのでしょうか。今すぐ我々が文化をつくるという事ではないと思います。ただ先人のつくったものを引き継いで行かなければならないという事は間違いないでしょうね。

B 委員： 今、思い出したのですが、以前何かの会議で「みどり文化」という言葉が出て来た時に、「みどり文化」と何なのだろうかという議論もあったと思います。

会 長： D委員が言われたように、「文化」というものを言葉の意味合いだけでとらないように、何か表現をして入れて行くという事でしょうかね。

C 委員： 私は文化部会ではなかったのですが、ただ登別の特徴的なものを写真とか言葉で残すというような話し合いがなされていたかと思います。出来上がったものを私は見ていないのですけれども。今、「文化」とか「歴史」という議論になり

ましたので、以前そのような事があったというだけです、気にしないでください。

E 委員：ここに居る人達は、どのような意味だという事が分かると思うのですが、これを読む人の中には子供達や全く関係のない人もいるのです。そこに並列する形で「文化」という言葉を出されても、誤解を招く事もあり得るのかなと思います。ですから「文化」という言葉を使うのであれば、何か別の書き方をしなければならぬのかなという気がします。

F 委員：私の言いたい事は、皆さんが今お話された「みどり文化」あるいは「景観に関する文化」、これは条例が出来る事によって色々な活動がなされ、市民も色々な興味を持ち、例えば今まで景観に興味なかった人でも景観に関して色々な意識を持つようになって、景観に関する文化的なものが醸成されて行くのではないかなというように思うのです。それは全く否定しないのですけれども、又それが狙いでもあるのですけれども、この文章は「先人達が培ってきた」という文言は「文化」にかかるわけですね。ですから「培ってきた歴史・文化」として2つとも残すか、あるいは2つとも省いて、「豊かな自然環境」と「良好な景観」にするか、文章的な流れからすると、そういう事だと思うのです。ですから、私はこの文章の流れから言えば、当然「豊かな自然環境」と「良好な景観」というのは、これまでの先人達の歴史と文化の上に成り立っているわけですから、当然な事としてそれは省いても良いのではないかなと思います。ここは単純に条例を制定しますという決意の場面ですので、「みどり」と「景観」、この2つの言葉だけで良いのではないかというのが私の意見です。

C 委員：私は、もし使うとすれば後に持っていくのが良いのではないかとってお話をしたので、今のF委員のご意見に賛成です。別に使わなくてもかまわないと思います。

F 委員：もしこれからの事を言うのであれば、また別なものを挿入させるという形になるのではないかと思います。この文章の中で入れるのはどうかと思います。

B 委員：文章的におかしいのであれば文化は削ってもかまいません。

会 長：文章的にどうか、景観とみどりの条例を制定するという宣言の意味合いを考えると、シンプルにしたほうが良いのではないかと思います。

D 委員：入れるとすれば文化の頭に何か付くと思います。ただの文化だけだと今話したような事になると思います。例えば自然を感じる文化とか、何か言葉が付いて、こういう文化だよと言う事でなければ駄目だと思います。文化単体だと、緑化や景観と関係のない話になると思います。景観緑化に関わる文化風土を作っていくという事であれば、文化という言葉が入っても良いとは思いますが、この状態だと、いったい何の文化だろうという事になると思います。

H 委員：賛成です。

E 委員： 私も賛成です。

会 長： 意味合いがぼやっとなるような表現だといけないという事で、文化という言葉を入れなくて、「自然環境と良好な景観を貴重な共有財産と認識し、将来にわたり守り、育て、活かし、次代へ継承していくため、この条例を制定します。」とストレートに宣言したほうが良いという事でよろしいでしょうか。時間になりましたので、もう一つの宿題については次回にしたいと思います。それが終わり、あとは全体をとおしてみても、皆さんの思いが条文に反映されているかどうかの確認が出来れば一巡すると思います。次回の会議ですが、あまり時間を置くと忘れてしまいますので、引き続き来週か再来週にでも開催したいと思いますが、よろしいでしょうか。

E 委員： 次回はどこまでやるのですか。

会 長： 前回の提案の「水・大気・大地」という問題を、どうするのかを考えるのと、あとは条例の思いという部分で、皆さんで全体を見直していきたいと思います。次回については2週間後くらいに開催したいと考えていますが、議事録は間に合わないと思いますので議事録なしでよろしいでしょうか。日時については事務局と相談し追って連絡したいと思います。それでは第20回の会議を終わります。お疲れ様でした。